



平成 20 年 11 月 14 日

各 位

会社名 株式会社ダイナシティ
代表者名 代表取締役社長 吉田 雅浩
(JASDAQ コード番号 8901)
問合せ先 執行役員 西田 耕二
総務人事部長
(TEL : 03-5733-8157)

特別損失の発生および平成 21 年 3 月期 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、下記のとおり平成 21 年 3 月期第 2 四半期において特別損失を計上することとなりましたのでお知らせいたしますとともに、平成 20 年 8 月 12 日公表の平成 21 年 3 月期 第 2 四半期累計期間および通期業績予想を修正しましたので下記の通りお知らせします。

記

1. 特別損失の発生およびその内容

当社は、長引く金融市場の混乱および信用収縮の影響により、当業界においても不動産取引は鈍化し、事業環境は一層厳しい状況となっていることから、事業の廃止を決定した不動産ソリューション物件および一部の中止した開発プロジェクトを対象とする投資用不動産の評価見直しを実施しました。平成 21 年 3 月期第 2 四半期において事業再構築損を計上するなど合計 32 億 37 百万円を特別損失として追加計上しました。

主な内訳としましては、投資用不動産の評価見直しにより事業再構築損として合計 25 億 59 百万円、また投資用不動産の売却により計上した投資不動産売却損合計 5 億 64 百万円等を特別損失として計上しました。

2. 平成 21 年 3 月期 第 2 四半期累計期間業績予想の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(1) 連 結

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回予想 (A)	10,000	△1,200	△2,100	△9,600
今回修正 (B)	9,651	△4,277	△5,108	△15,928
増減額 (B-A)	△348	△3,077	△3,008	△6,328
増 減 率 (%)	△3.5%	—	—	—
前期 (平成 20 年 3 月期) 中間 期実績	15,182	38	△651	△503



(2) 個 別

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回予想 (A)	9,500	△1,200	△2,100	△9,600
今回修正 (B)	9,088	△4,167	△5,022	△15,928
増減額 (B－A)	△411	△2,967	△2,922	△6,328
増 減 率 (%)	△4.3%	—	—	—
前期(平成20年3月期) 中間 期実績	14,562	△18	△720	△454

3. 平成21年3月期 第2四半期累計期間業績予想の修正理由

(1) 個別業績予想の修正

平成21年3月期 第2四半期累計期間において、一部プロジェクトの引渡しが下期へずれ込んだことにより、第2四半期において見込んでいた売上高が減少し、売上高は前回予想を4億11百万円下回りました。

損益面においては、貸付金の一部を貸倒引当金26億22百万円として販売費および一般管理費へ新たに計上すること等で、前回予想を営業利益において29億67百万円、経常利益において29億22百万円下回りました。当期純利益については、上記1. のとおり合計32億37百万円の特別損失を計上すること等で前回予想を63億28百万円下回りました。

(2) 連結業績予想の修正

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに個別要因によるものです。

4. 平成21年3月期 通期業績予想の修正理由

(1) 個別および連結業績予想の修正

当社は、平成20年10月31日に民事再生手続開始の申立てを行い、平成20年11月6日に民事再生手続開始決定を受け、再生に向けて全力を尽くしております。

このような状況の中では、通期業績の予想を策定することは著しく困難であり、平成20年8月12日公表の業績予想を取り下げるとともに、新たな業績予想の発表を見合わせることにします。

※なお、当社株式は平成20年11月1日付で整理ポストに割り当てられており、平成20年12月1日に上場廃止となる予定であります。

以 上